

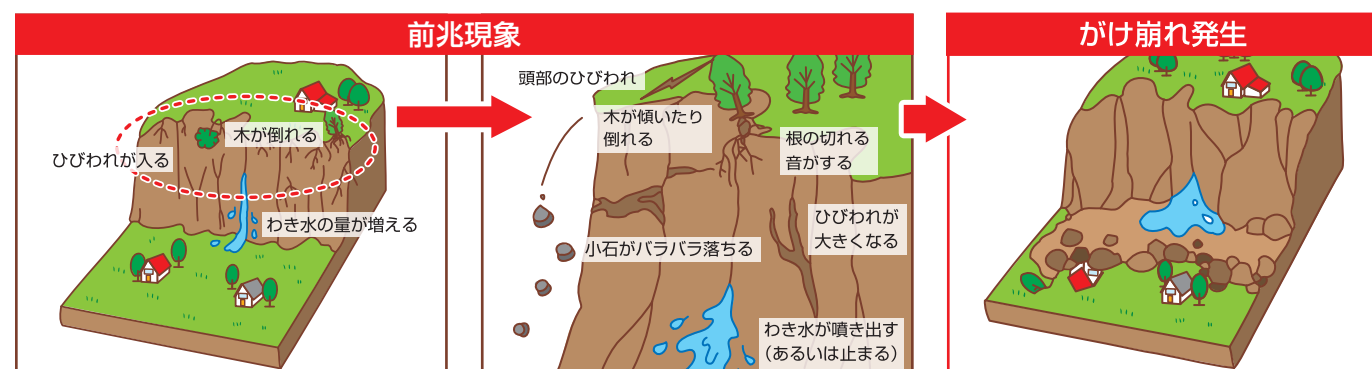
土砂災害

土砂災害の被害を軽減するためには、普段から土砂災害に対する備えが必要です。
家族で家の周りの危険箇所を確認し、災害に備えて避難経路や避難場所について、話し合っておきましょう。

土砂災害の種類

がけ崩れ

地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって、急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると被災するおそれが高くなります。



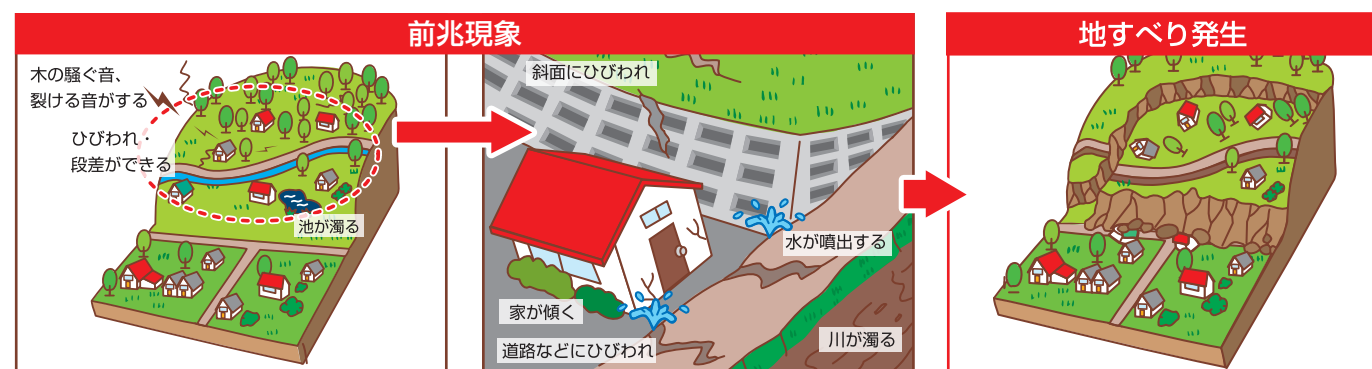
土石流

山腹・谷底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって、一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは時速20～40kmという速度で、一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動するため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※ 上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違う現象が発生し、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

土砂災害警戒区域とは？

土砂災害防止法に基づき、土砂災害が発生した場合に、生命又は身体に危害が生じるおそれのある区域として、福岡県により土砂災害警戒区域が指定されました。

土砂災害警戒区域は、危険度に応じて次の2つに分けられています。

土砂災害警戒区域

土砂災害が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域です。

土砂災害特別警戒区域

土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域です。

特定の開発行為に対する許可制や、建築物の構造規制等が行われます。

- ※ 不動産取引等で正確な土砂災害警戒区域の確認が必要な場合は、福岡県北九州市土整備事務所や建設局河川整備課で確認してください。
- ※ 土砂災害特別警戒区域内などにすでに建つ住宅等の所有者等が、住宅をとりこわして移転する場合は「北九州市がけ地近接等危険住宅移転事業」の補助が利用できます。
- ※ 土砂災害警戒区域に指定されていない場所でも土砂災害が起こる可能性があります。

市内では、これまでに多くの土砂災害が発生しています

昭和28年の北九州大水害

昭和28年6月、北九州地方の豪雨では旧門司市で25日からの4日間総降水量が600ミリを超え、旧北九州5市(現在の北九州市)全体で、183名の死者・行方不明者となる記録的な豪雨となりました。

この豪雨により、旧門司市内で600箇所以上、旧北九州5市全体で、1,000箇所に及ぶ土砂災害が発生しました。



昭和28年6月門司区(毎日新聞社撮影)

平成30年7月豪雨

平成30年6月28日以降の台風第7号や、梅雨前線の影響によって、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となりました。北九州市内でも7月5日から8日にかけての総降水量は400ミリを超え、2名の人命が失われる大雨となり、407箇所で土砂災害が発生しました。



平成30年7月豪雨

避難のタイミング

早めの避難

がけ崩れ、土石流、地すべりに大別される土砂災害は、被災すると生命に危険を及ぼすおそれがあり大変危険です。避難情報にしたがって早めに避難しましょう。



市から避難情報が発令された時は!!

警戒レベル	市が発令する避難情報	住民がとるべき行動
5	緊急安全確保	すでに安全な避難ができず、命が危険な状況です。直ちに身の安全を確保する行動をとしましょう。
～ <警戒レベル4までに必ず避難!> ～		
4	避難指示	土砂災害が発生するおそれが高まっています。危険な場所から全員避難を開始し、早めに避難を完了させましょう。
3	高齢者等避難	土砂災害が発生するおそれがあります。高齢者や障害のある方など避難に時間がかかる方は避難を開始し、早めに避難を完了させましょう。

※ 具体的な避難行動はP29「避難行動判定フロー」で確認しましょう。

！ 防災気象情報に注意

大雨等により土砂災害の危険性が高まったときに、気象庁から発表されます。

雨が強くなると

大雨注意報

災害が起こるおそれがあります。

大雨が降り続くと

大雨警報(土砂災害)

重大な災害が起こるおそれがあります。

さらに激しい大雨が続くと

土砂災害警戒情報

土砂災害の発生危険度が高まっています。

数十年に一度の大雨になると

大雨特別警報(土砂災害)

土砂災害が同時多発的に発生するおそれが高まっています。

避難のポイント

避難するときに気をつけること

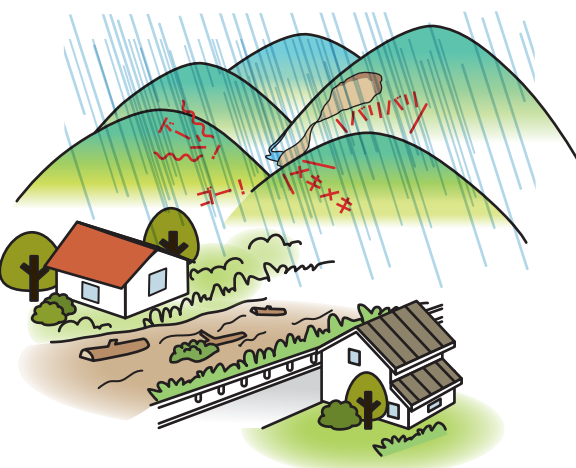
土砂災害警戒区域は通らない

避難する際は、土砂災害警戒区域は通らないようにする。



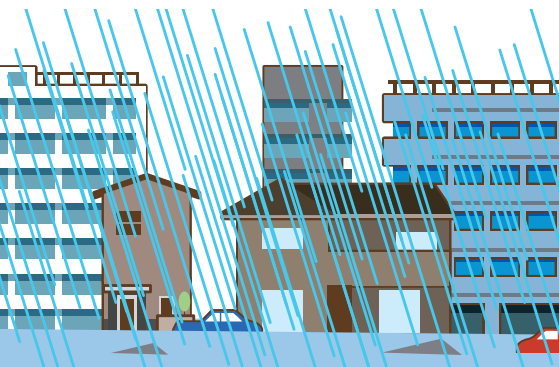
前兆現象を知り、早めに避難

土砂災害の発生前には、前兆現象がみられることがある。前兆現象を確認した場合は、すみやかに避難する。



長雨や豪雨に注意

降り始めからの降水量が100ミリ以上になったときには、土砂災害が発生するおそれがあるため、家の周りの状況や避難情報等に注意する。



土石流に直面したときの逃げ方

土石流のスピードは、時速20～40キロと非常に速く、流れに背を向けて逃げても、追いつかれてしまうため、土砂の流れる方向に対して、直角に逃げる。



逃げ遅れたときには命を守る最善の行動を!!

比較的高い鉄筋コンクリート造などの堅固な建物や、自宅の斜面とは反対側の2階以上に位置する場所に移動する。

